

中学生の喫煙に関する調査

小林 臻

〔要約〕

1987年10月に神奈川県内の公立中学校8校及び3年生男女2025名を対象に、喫煙に関する知識や行動の実態と、文部省の「喫煙等防止に関する保健指導の手引」の利用状況について調査し、以下の知見を得た。

- (1) 習慣的に喫煙していると回答したものが男子110名(9.1%)女子32名(3.9%)あった。
- (2) 喫煙の健康に及ぼす影響についての知識は十分といえず正確さに欠け、漠然としたものが多い。
- (3) 喫煙しているグループの喫煙の理由としては、「頭がすっきりする」「イライラがとれる」「妊娠しにくい」「やせる」などをあげている。
- (4) 文部省の手引書を利用していたのは8校のうち2校のみで、まだ有効に利用されていない。

〔研究目的〕

喫煙の害が広く認識されるようになり、成人の喫煙率は徐々に低下しつつある。しかし、一方では、若い女性の喫煙率は上昇しており、また、喫煙開始年齢の低年齢化が憂慮されている。文部省は、一昨年、昨年とひきつづき、小学校、中学校の喫煙等に関する保健指導の手引きを作成し、学校現場における喫煙防止教育の充実を呼びかけている。このような状況の下で、中学生たちの喫煙に関する知識や行動の実態を調

査すると同時に、手引きの利用状況についても調査し検討したので報告する。

〔対象と方法〕

調査は、神奈川県の中央地区にある公立中学校8校に在籍する3年生で男子1205名、女子820名の計2025名です。生活指導部、担任、養護教諭の協力を得てホームルームの時間を利用し、調査用紙に無記名方式で生徒自身に回答を依頼、その

場で回収し、分析のデータとした。調査の期間は、1987年10月である。

〔研究の結果および考察〕

(1) 習慣的喫煙の状況

「習慣的に喫煙している」と回答した者は、男子110名(9.1%)、女子32名(3.9%)となっており、これまでに散見する報告値とほぼ同じであるが、女子の方はやや低い値となっていた。

(2) 喫煙が健康に及ぼす影響についての知識

「喫煙が健康に及ぼす影響について知っていることを書きなさい」と自由記入してもらった結果は、表2のとおりである。「肺ガンなどにかかりやすい」が52%で最も多く、やはり喫煙と肺ガンが関係あることは知られているようである。しかし、理解の程度については、詳細はわからない。呼吸器系統や心臓への影響も回答されているが、近年、喫煙の健康被害や禁煙の話題がよくとりあげられている割には、中学生の知識は低く、正確さにかけて、漠然と知っているだけのように思える。さらに、先述の「喫煙している」グループ男子110名、女子32名について、喫煙の理由をたずねると「頭がすっきりする」、「妊娠しにくいから」、「イライラするのが治る」、「やせるから」などの回答が25~40%近くの割合でみとめられた(表3)。このような生徒に対して、個人指導にウエイトをおき喫煙の健康への害を正しく認識させ

る必要がある。そのためには、養護教諭、保健担当の教諭、担任が、喫煙に関して科学的で正確な知識を体得し、保護者の協力を得ながら自分をも含めて禁煙を徹底する強い態度が要求される。

(3) 学校における喫煙防止のための手引書の利用状況

文部省作成の「手引書」を使用しているのは、8校のうち2校だけで、「手引書」が有効に利用されていないようである。「手引書」が作成されたばかりであることも理由となろう。一方、「手引書」を活用している2校の喫煙防止活動への取り組みをみると、生徒会の委員会活動を通して生徒に積極的に参加を促し、具体的には保健委員会を中心に活動が展開されていた。また2校のうちの1校は、「文化祭」でタバコをテーマにとりあげており、生徒たちのタバコへの関心は強かったとのことであった。確かに、この2校の習慣的喫煙者率は各々、5.9%、6.8%と全体平均より低くなっており(表4)、喫煙が健康に及ぼす影響についても、「虚血性心疾患」、「ニコチン」、「一酸化炭素」などの用語を用いて的確に指摘している者がみられ、健康教育の徹底による喫煙についての正しい知識と理解が、禁煙への強い動機づけとなることを示唆していると思われる。

表1. 習慣的喫煙の状況

	吸っている	吸っていない	
男子	110名 (9.1%)	1095名 (90.9%)	1205名 (100%)
女子	32名 (3.9%)	788名 (96.1%)	820名 (100%)

表2. 喫煙のからだへの影響 (複数回答) N=2025

1. 肺ガンなどになりやすい	52%
2. のどや気管に悪い	41%
3. 心臓に悪い	34%
4. ぜんそくになる	28%
5. せきやたんがでる	26%
6. 妊娠のとき、お腹の子によくない	24%
7. 皮膚がきたなくなる	23%
8. 寿命を縮める	21%
9. 疲れやすい	17%
10. その他	12%

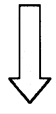
表3. 喫煙の理由 (喫煙しているグループ)

	男子+女子	男子	女子
	N=142	N=110	N=32
1. 頭がすっきりする	42%	45%	31%
2. イライラがとれる	41%	45%	38%
3. 妊娠しにくい	31%	27%	40%
4. やせる	30%	25%	45%

表4. 各校の習慣的喫煙者率

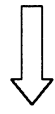
※ A	5.9%
※ B	6.8%
C	8.0%
D	7.8%
E	6.4%
F	7.1%
G	7.2%
H	6.9%
平均	7.0%

※印: 手引書利用校



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔要約〕

1987年10月に神奈川県内の公立中学校8校及び3年生男女2025名を対象に、喫煙に関する知識や行動の実態と、文部省の「喫煙等防止に関する保健指導の手引」の利用状況について調査し、以下の知見を得た。

- (1) 習慣的に喫煙していると回答したものが男子110名(9.1%)女子32名(3.9%)あった。
- (2) 喫煙の健康に及ぼす影響についての知識は十分といえず正確さに欠け、漠然としたものが多い。
- (3) 喫煙しているグループの喫煙の理由としては、「頭がすっきりする」「イライラがとれる」「妊娠しにくい」「やせる」などをあげている。
- (4) 文部省の手引書を利用していたのは8校のうち2校のみで、まだ有効に利用されていない。